

平成 28 年度三重四川災害対応連絡会 第 2 回鈴鹿川委員会議事概要

- 1 日 時：平成 28 年 8 月 26 日（火） 10:00～11:10
- 2 会 場：鈴鹿市役所 本館 6 階 庁議室
- 3 出席者：委員会構成員
鈴鹿市 末松則子市長
四日市市 田中俊行市長（代理：山下二三夫危機管理監）
亀山市 櫻井義之市長（欠席）
三重県 県土整備部 施設災害対策課 倉田正明課長
四日市建設事務所 幸阪芳和所長
鈴鹿建設事務所 山口尚茂所長
気象庁 津地方气象台 日当智明台長（代理：松木晃一郎防災管理官）
国土交通省 三重河川国道事務所 川村謙一所長
- 4 議 事：1）第 1 回鈴鹿川委員会の議事概要等
2）鈴鹿川水系の減災に係る取組方針（案）
3）今後のスケジュールについて
- 5 議事概要：
 - ・鈴鹿川水系の減災に係る取組方針（案）について確認し、了承を得た。

[出席者の主な発言]

- ・来年度の出水期前にフォローアップすることになっているが、市のみで行う取り組み内容であれば単独で行えるが、市と県・国で連携して行う取り組み内容については、どのような形でフォローアップを行うのか。市の進捗状況を確認するのか、もしくは、事前に幹事会などを開催し、取り組み内容を報告してまとめるのか。
 - 取り組み内容を具体的に幹事会などでまとめていく。例えば出水期が過ぎたら、各機関で取り組んだ内容の報告や全国で進めている中で、活用できる取り組み内容があれば鈴鹿川でも進めておきたい。次年度以降は出水期前のフォローアップを目的として幹事会で議論して委員会を開催する予定。
- ・幹事会でしっかり議論して集約してもらうことはありがたい。
- ・（「水害時の対応に係る市町村向け啓発ビデオ」における）首長メッセージでは事前対策、発災後の迅速な対策がどれほど大切であるかを言われていた。同じ立場として、初動体制の大切さ、人は逃げないものだ^{わら}と自身も感じている。いざ大災害となった場合、どのように避難してもらうか、そのためにはどのような情報提供をしていくのか、これからしっかり対応していく。
- ・これまでも氾濫危険水位を超える洪水が発生している。昨日の集中豪雨で、市内もかなり雨が降った。災害がいつどこで起きてもおかしくない。集中豪雨の場合、市の中でも降り方が違うし、隣接市町でも降雨状況が違うこともある。予測できない大雨の時に警報が出た場合、夜中や明け方の初動体制の準備をこれから考えていく。
- ・警報が出た場合には、このような災害対応連絡会を開催しているので近隣市町と情報のやりとりがしやすい。このネットワークを大事にしていきたい。
- ・今の時期は、稲刈り後となり田に稲^{わら}藁がある。大雨が降ると藁が流れ出し、二次災害、三次災害をもたらす危険性があるため、農業者の方々には河川に藁が流れ出ないようにお願いしている。

- ・この時期の委員会開催は、新たな情報を入れていただく以上に、意識を改めて持つということでも良い時期である。委員会は年に1、2回となっているが、被災した場合は緊急的に開催するなどしてほしい。
- ・市としては、ハザードマップの見直しを実施していく。
- ・これまでも、ハード・ソフト対策として河川国道事務所と連携して行ってきたところ。これからもしっかり連携をしていきたい。減災の取り組み内容として、市として連携して取り組んでいく場合は、市の災害対応策に盛り込んでいく。啓発活動や訓練を通じて市民の安心・安全につながるように心がけていく。

以上

(事務局作成)